

時 事 解 説

イネウンカ類の発生予察と防除対策

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 さな だ さち よ
植物防疫研究部門 基盤防除技術研究領域 真 田 幸 代

はじめに

イネウンカ類のトビイロウンカ・セジロウンカ・ヒメトビウンカ（図-1）はアジア地域におけるイネの重要害虫である。なかでもトビイロウンカは増殖力が高く、多発生により刈り取り間際のイネが大量に枯死する“坪枯れ”を起こし大きな被害をもたらしてきた。日本では、2019年に引き続き、2020年にも本種が多発生し、各地で“坪枯れ”（図-2）の被害が確認された。また、2019年では九州地域を中心に多発生したが、2020年ではこれまで大きな被害が見られなかった中四国、近畿、東海地域の一部にまで被害が拡大し、2020年に府県が発表したトビイロウンカの注意報・警報の件数は、多発した2019年を上回り、愛知県では22年ぶり、京都府では33年ぶりの警報の発表となった（図-3、4）。2020年の作況指数も例年に比べて西日本地域でおおむね低く、九州、中四国、近畿で不作・やや不作となった。地域ごとにトビイロウンカの被害の状況について検討すると、九州では2019年にトビイロウンカの被害が大きかったことから、翌年の2020年は本種に対する警戒を強めて

いたため、前年ほど被害は頻発しなかったと見られている（2020年の収量減には日照不足や台風等の気象条件も大きく影響）。一方、2019年に本種による被害の程度が低かった、あるいはほとんど認められなかった中四国、近畿、東海地域においては、2020年に坪枯れによる被害が多く見られ、特に中四国の一部地域では、気象要因とあいまって、作況指数を低下させた主要因の一つとなった。ここでは、イネウンカ類の発生生態を概説するとともに、2020年に多発したトビイロウンカの飛



図-2 坪枯れの様子（2020年9月熊本県内）



図-1 トビイロウンカ（左）・セジロウンカ（中）・ヒメトビウンカ（右）の長翅型雌
トビイロウンカ：体長4～5 mm，セジロウンカ：体長3～4 mm，ヒメトビウンカ：体長2～3 mm。

Forecasting and Control of Rice Planthoppers. By Sachiyo
SANADA-MORIMURA
(キーワード：海外飛来性，育苗箱施用剤，*Nilaparvata lugens*)